

原泌尿器科病院 透析室だより

2024(令和6年)3月発行

第91号

発行者 原泌尿器科病院 透析室

病院理念

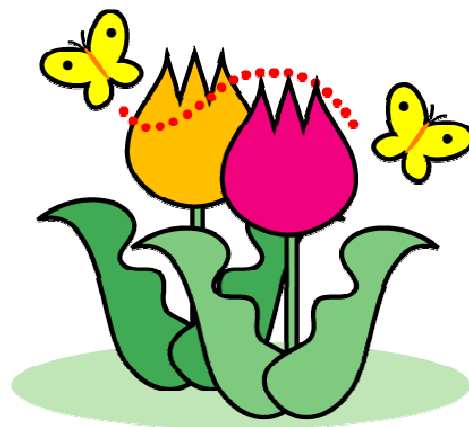
信念を持って真摯に医療をおこなうこと

基本方針

患者さんが納得される最適な医療を 安全に提供します

患者さんにとって良いことは 優先しておこないます

最新の治療法を積極的に取り入れます



春までもう一步といったところでしょうか。季節外れの寒さや暖かさを繰り返し、ようやく春の訪れを感じるようになってきましたね。

みなさんは『貧血』と聞くとどのようなイメージをお持ちでしょうか？
今月の透析室だよりでは、柳瀬先生から『貧血』についてレクチャーしていただきます。

貧血とは『血液中のヘモグロビン濃度が基準値以下に低下した状態』と定義されています。

ヘモグロビン (Hb) は赤血球中に存在するタンパク質で、酸素と結合する性質を持っています。

つまり、ヘモグロビンが少ないと酸素も少なくなり、疲れやすい・息切れ・動悸といった貧血症状を認めます。





ヘモグロビン (Hb) がいくつだと貧血なの？

当院の採血では、月2回ヘモグロビン値 (Hb) を測定しています。
透析患者様では Hb10 g /dl 以下を貧血と定義しています。



貧血の原因は？

原因は大きく分けて、2つのパターンがあります。

- ①骨髄で血液 (赤血球) が作れない。
- ②血液 (赤血球) が失われる。

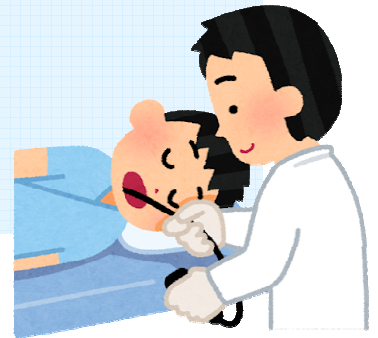


皆様は腎不全によって引き起こされる貧血 (腎性貧血) と鉄分が少なくなって引き起こされる貧血 (鉄欠乏性貧血) は、回診時によく聞くと思います。

このパターンは①にあたり、血液が造れなくなりますので、注射 (腎性貧血治療薬：ダルベポエチンアルファやミルセラ[®]、鉄欠乏性貧血治療薬：フェジン[®]) や内服薬 (腎性貧血治療薬：エベレンゾ[®] やダーブロック[®]、鉄欠乏性貧血治療薬：フェロミア[®]) で補い貧血を改善させます。

パターン②は、消化管出血などの可能性が高いです。
便に血液が混じって赤い便や黒い便が出ていないか確認が
必要です。

結果次第では消化器内科に受診して頂き、
胃カメラや大腸カメラを受けて頂くことになります。



私たち医療スタッフはこのような見方で、透析患者様の
適切な管理目標値とされるヘモグロビン値 10～12g/dl
になるようお薬で調節しています。

(ヘモグロビン値 10～12g/dl で生命予後が良いと言わ
れています。)

これら以外の貧血の原因も多数ありますが、この3点は
皆様に覚えておいてほしい病態・疾患です。

ご自身の採血結果のヘモグロビン値の経過をみて、何か
お気づき点があれば、回診時に聞いてみてくださいね。

送迎バス、病院内では必ずマスクを着用してください
乗車および入退室時には手指消毒をおこなってください
バス及び透析室は換気のため窓を開けます
包布や電気あんか等、ご自身でも防寒の対策をお願いします

重要！必ず読んでください！

以下の場合

透析日に関わらず、電話連絡をください！

自宅では毎日
熱を測ること！

体温が 37.0 度 以上 ある

吐き気や嘔吐、激しい下痢 症状がある

熱はないが、鼻水・くしゃみ・せき・のどの痛み など 風邪症状 がある

同居人や職場など 身近に発熱や風邪症状の方がいる

感染症は拡大させないための対策が重要です！

他の患者さんとの接触を防ぐため、来院時間を指定させていただきます。

透析室直通番号 078-371-1272

月水金：7：30～19：00 火木土：7：30～15：30

夜間・休日等、繋がらない場合は 078-371-6630